

◆方針のスタンスについて

- ◎札幌市が歴史的資産の保存活動をするにあたって、どうしていこうとしているのか。今後、観光に資するものにしたいのか、地域の歴史的資産を確保してそれを活かしたまちづくりをしていくのか、徹底的に保存するか。
- ◎保存も活用も幅があって、学術的な価値、文化的価値、歴史的価値を大事にした上で活用するか、あるいはしないかで大きな幅ができてしまう。
- ◎所有者が「この建物をどうしようか、壊したいなどと思ったときに、この方針を見ていると、もしかしていると価値があるみたい、活用してもよいかも」など、自分の解決口に行くガイドになると一番いい。
- ◎現状と課題に対して、行政側ができること（相談窓口・制度の整備・予算化など）や今はできないけど、考えていることが方針にあればよいと思う。
- ◎活用の方向性が書いてある方がよいと思う。
- ◎活用については、民間が中心になってやるべき。
- ◎太宰府の事例では「市民遺産」について、市民や企業が主体となって保存活動をして、市はそれを支援している。
- ◎保存に関するいろいろな事例は知りたい。日本や世界で歴史的資産の保存に成功しているところ。
- ◎「自分の場合はこれが使える」など具体的に使える項目や方法が方針に示されている方がよい。

◆方針の目的について

- ◎目的自体が歴史的資産を守っていくということ。観光とかまちづくりを目的にしたら、その一部になってしまう。歴史的資産を守ることが目的であって、そのためのストーリーは札幌の特徴をいくつかのキーワードでまとめたという形にして、それを手段として観光目的として扱うとか。
- ◎保存するために活用する。主は保存にあると思う。保存するための方法として活用がある。
- ◎保存にもいろいろなレベルがある。住むことや観光資源として活用するのも、保存のためになる。
- ◎文化庁もかつては保存がメインだったが、保存だけだと現代社会で建物を維持できない。保存には何かしら活かした使い方がある方が建物にとってもいいということで、保存活用ということにした。
- ◎色々な資産があることを知ってもらうことも大事。

◆ストーリー・テーマについて

- ◎2~3テーマというのは、深く掘り下げるものが2~3でそれ以外のテーマもある。
- ◎明治、大正、昭和など時代での区分はインパクトやすい。
- ◎札幌市の成り立ちでいえば、白石村があり豊平村があり、そこでの歴史をふまえると違ったものが見えてくる。
- ◎開拓期を意識したストーリーがよいと思う。そのテーマで活動している団体もあるので。
- ◎10区にかかるようなストーリーはどうか。区単位で区切るのではなく、全部の区にかかるようなストーリーになっているということ。全部の区に住んでいる人が「自分のストーリーはここだ」と思えるような。
- ◎例えば白石区で現存している歴史的な建物は2つくらいで、他は「跡」。しかし、住んでいる人はかつてここにレンガ工場があって、そのレンガを中心にまちづくりをしたという思いは強い。現在残っているものだけでなく、そこに住んでいる人の気持ちを慮るようなことがあるとよい。

- ◎建物だけではなく、慣習など人の暮らしも入れておけばいろんなところにつながるかと思う。
- ◎必ず「抜け」が出てくるので、テーマ設定の方策とか考え方があると、「ここに抜けているけれど、自分たちではこういうテーマが設定できる」という可能性を感じてもらうことが大事。
- ◎このテーマを考えたときに活動団体があるなど、建物だけじゃなく生活とか郷土史などからも生み出せるという考え方のヒントが書いてあって、「私も関われる」とか「私にもテーマがある」と思えるように書かれているとよい。
- ◎歴史的資産で「物語を紡ぐ」という考え方が出てくるけれど、そのひとつ前に目的、それをなぜ考えなくてはならないかというのが必要。それがないと、ただストーリーをいきなり考えることになってしまう。目的は、地域の人が一番幸せになれる、自分たちの歴史を考えそれを次の世代につなげることが地域の暮らしがより豊かになる、地域の人にプラスになるものがないとがんばれない。
- ◎まず知ること。地域にはこういうストーリーがあって、だからこの建物があってというのがあれば知る一助にはなる。

◆その他

- ◎歴史資料については、目録があって検索できたり、それで観光資料ができるとかパンフレットに使えるとよい。それが活用。
- ◎活動団体の一覧など盛り込んでもらいたい。
- ◎調査の分析については、現用途だけでなく、旧用途での分析も行った方がよい。
- ◎方針に載せるのは、調査の分析結果だけでよい。
- ◎考古関係、埋蔵文化財系は抜けているので何らかの記載があったほうがいい。
- ◎札幌市にはあまり歴史的遺産がないと思われているが地図にまとめて示して目に見えるようにするとたくさんあることがわかり、見る方の意識が変わるのでよい。
- ◎わかりやすく、やわらかい文章で書いてほしい。

以上

◆方針の項目について

◎＜5 基本的な方向性＞の部分

まず「見つける」を入れてから、ステップアップで「知る」としたい。先に市民が見つけること、掘り起こすことが大事。

◆方針の内容について

◎世界遺産の「5C」（信頼性／保全・保存／人材育成／普及啓発／共同体）を意識して組み立てられないか。文化財の世界的な方向性となっている。

◎博物館・資料館的な役割を持つ人・機関が必要では。（行政と市民の間に）

◎札幌市の下に行政区ごとのまとめも先々必要では。

◎古文書や古地図など歴史資料もあるが、そのままでは活用が難しい。施設の壁掛けや、一部コーナーを設けるなどで見えるようにできないか。

◆体制について

◎【課題】札幌市で一番不足しているのが、所有者や、歴史的資産の活用に興味のある人をサポートする人材。仲介役がない。社会的な仕組みが作れていない。

-難しいとは思いますが学芸員を置くと記載できればよい。

-相談窓口を作ってはどうか（週に何回かでも）。

-ヘリテージマネージャーやコーディネーターのスキルを活用

◎所有者どうしの交流会を開催してはどうか。所有者のネットワークが必要。

◎定期的なコミュニケーションの場／保存・活用のアドバイスの場を、現状のようにボランティアではなく行政（または民間）のバックアップで開催できないか。

◎歴史的資産仲介・紹介の場ができれば。

◎窓口は行政で、実務は民間など、役割分担ができれば良いのでは。

<マッチングについて>

◎個人オーナーだと調整が難しいので、仕組みづくりが必要。

◆ツールの作成について

【課題】歴史的資産に対する情報提供が少ない（身近なものにも気づいていない）。

-周辺の、跡地も含めた歴史的資産に対する住民の気づきや自覚を促すためのツール（冊子など）を制作できないか。

-指定されていないところでも、所有者さんがパンフレットに乗せてはどうか。

ここにこういう歴史的資産があったのか、うちの近所じゃないか、というような気づき。

-町歩きとして楽しめるよう、跡地含め説明看板等のさらなる整備ができないか。こんな歴史があったのか、こんな場所だったんだと知ってもらえることで、残そうという機運が出てくる。

-根室市では、金属のプレートに説明書きのある「史跡標柱」というものを立てていて、それをめぐるツアーもある。

-各区のホームページには必ず歴史が載っていて充実している。それと連携していくのもよい。

以上